

# 芦田川 かわら版

～みずからまろう ふるさと芦田川の会～ 第2号

【発行】

高石市役所 土木部事業課  
住所 〒592-8585 大阪府高石市加茂4-1-1  
電話 072-265-1001  
Fax 072-263-6116



## 寝屋川へ事例見学会に行ってきました！

2010年2月21日（日）晴天のほかほか陽気の中、市民と行政の協働によって水辺の再生が行われた寝屋川へ事例見学会に行ってきました。

寝屋川はかつては水質全国ワースト1でした。急激な開発で水害に悩まされ、治水を最優先にした整備が行われた結果、コンクリートと矢板、フェンスで囲まれ、市民からは遠い水辺空間になっていました。しかし平成13年、市制50周年を期にこの忘れられた川を、生き物が生まれ育つ川に蘇らせ市民の生活空間に取り戻そうと、市民協働による川の再生がスタートしました。

見学会では寝屋川ワークショップの上田豪さんから寝屋川再生に至る行政と市民の活動についてお話をお聞きするとともに、実際にワークショップを重ねてつくりあげられた寝屋川せせらぎ公園、幸町公園、茨田樋遺跡水辺公園を見学しました。

### ■寝屋川せせらぎ公園

寝屋川せせらぎ公園のコンセプトは、『生き物にも人にも魅力のある空間』です。

生き物が居着くよう、空石積み護岸や、瀬やワンドを配し源流域の野草や樹木を植栽する等の自然が味わえるよう工夫され、沈下橋、若い世代にも興味を持ってもらえるようなウッドデッキや車椅子や高齢者も楽しめる工夫がなされていました。



### ■幸町公園

幸町公園のコンセプトは『子供たちが水遊びや環境学習のできる空間づくり』です。

大阪府営団地立替えに伴いつくられた親水空間で、寝屋川せせらぎ公園では水量の変動のためできなかった「緩傾斜で川まで降りる」ことができるようになっていました。



### ■茨田樋遺跡水辺公園

茨田樋遺跡水辺公園は市民公共工事ともいえる、市民の手作り整備で『自然の復元と、地域に埋もれた川の文化を掘り起こし「かたち」にした事例です。

市民と住民が自分たちに必要な物を自分たちで決めて作るという手法を学ぶことができました。

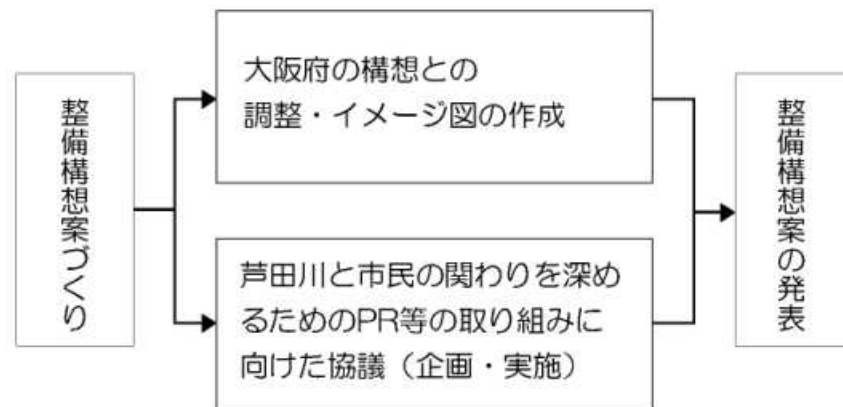


## 今後のスケジュール（予定）について

平成21年度は「川あるき・まちあるきワークショップ」として、3つのグループに分かれて、整備区域内を改めてゆっくりと歩き、芦田川の良いところや改善すべき所を再発見し、地図上にまとめました。

そして、川あるき・まちあるきワークショップでの結果を受けて、「こんな芦田川でこんなことしたい」「こんな芦田川にしたい」といった利用イメージ、整備イメージを考えていきました。

今後はさらに具体的な利用イメージ・整備イメージについて議論を行い、整備構想素案づくりを進めていきます。そして芦田川と市民の関わりを深めるためのPR等の取り組みに向けた協議を進めていきたいと考えております。



第1回ワークショップの様子



第2回川歩きワークショップの様子



第3回ワークショップの様子

## 芦田川 トピック

### 日本固有の鳥、セグロセキレイ

世界中で日本にだけ住む鳥は何種類存在すると思いますか？

様々な説があり一概には言えませんが、アマミヤマシギ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ルリカケス、アカコッコ、アカヒゲ、メグロ、カヤクグリ、ヤマドリ、アオゲラ、キジ、そしてセグロセキレイの12種類だと言われています。

そしてこの中の1種類であるセグロセキレイが芦田川で観察できることを知っていましたか？

一般によく見られるセキレイはハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイの3種類で、体長21cmほどのムクドリより小さく細身の鳥です。

ハクセキレイが白い顔に黒い眉斑であるのに対し、セグロセキレイは頭から首、羽にかけて黒っぽく、お腹が白いのが特徴です。遠くにいる時や飛んでいる最中には見分けが付きにくいですが、ハクセキレイがピピッ、ピピッ、と澄んだ声で鳴くのに対し、セグロセキレイはビビッ、ビビッ、と少し濁った声で飛びながらよく鳴きます。また川などの水際には尾羽を上下に振りながら歩く愛らしい姿も見かけられることができます。

ぜひ一度、芦田川へ観察に訪れてください。



セグロセキレイ



## 第3回ワークショップ

実施日 : 2009年11月21日 (土)  
 実施場所 : 高石市役所別館1階  
 参加者 : 17名

平成21年11月21日(土)、『芦田川でこんなことしたい!こんな芦田川にしたい!』というテーマでワークショップが開催されました。26枚のイメージ写真から自分自身が思い描くイメージに最も近い写真を一枚選び、その理由についてグループ内で発表を行いました。そして出された意見からみんなで芦田川の整備や使い方のイメージを膨らませていきました。ワークショップの最後には各グループごとに『芦田川でこんなことしたい!こんな芦田川にしたい!』をキャッチフレーズにまとめました。

### 1班

～キャッチフレーズ～  
 四季を通じて子どもの声が聞こえる「自然と人の芦田川」

#### 【主なご意見】

1班では「四季が楽しめる」「休憩できる」「メダカが住める川・水遊びができる川」という視点から話し合いが行われました。1班から出されたポイントは遊びながら子ども達が学べる空間になればという想いでした。日時計を置いたり、ベンチを石にして石の種類を覚えられるような空間にしてはどうかといったアイデアも出されました。



### 2班

～キャッチフレーズ～  
 子どもからお年寄りが集い・収穫祭が出来る・花と水がある憩いの広場

#### 【主なご意見】

2班では、「水遊びができる」「地域で収穫祭(イベント)ができる」「犬と散歩できる」「憩いの場」「管理面」の5つのキーワードから話し合いが行われました。特に「収穫祭」というキーワードには地域でイベントが行える場所であってほしい。年代を問わず、子どもからお年寄りまでが集まることの出来る場所として使ってほしいという想いが込められています。



### 3班

～キャッチフレーズ～  
 水と芦の茂みで遊ぼう芦田川

#### 【主なご意見】

3班では、「水遊びができる空間」「人が集まれる空間・団楽がある空間」「自然・風景」の3つの視点から話し合いが行われました。3班から出された意見には「緑が多い、子どもが安全に水遊びができる場所になってほしい」という想いや、「芦田川という名前の由来となった芦の密集した風景を大事にしたい」といった考えがありました。



## 第4回ワークショップ

実施日 : 2010年1月24日 (日)  
 実施場所 : 高石市役所別館1階  
 参加者 : 18名

平成22年1月24日(日)、『芦田川のデザインシートをつくろう』というテーマでワークショップが開催されました。

この第4回ワークショップでは第3回ワークショップで考えたキャッチフレーズや様々な意見・アイデアをさらに広げて、より具体的な利用イメージ、整備イメージを考えていきました。そして地図を見ながら、各々の整備利用イメージの「場所・位置」についても考えて、デザインシートにまとめていきました。



話し合いの様子

### ～各班で出された主な意見～

#### 1班

- ・子どもが小魚を追いかける空間をつくる。
- ・休憩できるスペースを設ける。
- ・四季を通じて楽しめる空間にする。
- ・ジョギングや散歩を通して四季を楽しむ。
- ・管理の手間がかからないようにしておく。



#### 2班

- ・川沿いで羽衣小学校区と加茂小学校区に分かれているので、どちらでも遊べるようにする。
- ・生き物を捕ったり、自然の中で遊べるようにする。
- ・小さな広場ごとに異なった体験ができるスペースを設ける。
- ・休憩ができるようにベンチをおく。



#### 3班

- ・子どもが川の中に入って遊んでも安全にする。
- ・整備区域全体で1周が1kmなので、ジョギングコースにして、関わる人を増やしたい。
- ・一年中、四季を感じられるように、木や花を植える。
- ・水量が少ない時期でも生き物が暮らせるように深みをつくる。



### 第3・4回ワークショップを通して出てきた共通のイメージ

第3・4回ワークショップの中で各班に共通して出された意見がありました。

- 子どもが安全に遊べる川  
 子どもが川の中に入って水遊びができて、水の大切さを知ることができる場所であってほしい。
- 生き物が暮らせる川  
 あまり人工的な川にするのではなく、自然に近い形で整備してほしい。そして様々な生き物が息できる環境にしていきたい。
- 憩いの場  
 四季の移り変わりを楽しみながら、だれもが木陰等で休憩できるスペースがあるとよい。